

令和3年度京都府母子・父子世帯実態調査の結果について(速報版)

令和4年9月
京都府健康福祉部家庭支援課

令和3年度に実施しました「母子・父子世帯実態調査」の結果について、その概要は下記のとおりです。

記

I 調査概要

- (1) 調査対象 京都府内(京都市除く)に居住する母子世帯及び父子世帯
 (2) 調査基準日 令和3年10月1日
 (3) 調査方法 調査票及びヒアリングによる調査

(4) 回収結果

調査票	配布数	回収数	回収率
母子世帯	6,208世帯	2,100世帯	33.8%
父子世帯	348世帯	110世帯	31.6%
計	6,556世帯	2,210世帯	33.7%

※別途ヒアリングによる調査19名

※他に、無効回答票が14件あり

II 調査結果の概要**<新規調査>****(1) コロナ禍の影響**

- コロナ禍により収入が減少した方は、母子で約3割(30.4%)、父子では半数近く(46.4%)にのぼり、減少の要因は出勤回数・勤務時間の減少(母子58.2%、父子72.3%)が最も多い。
- 収入以外の影響としては、「レジャーに行く頻度が減った」(母子39.5%、父子30.9%)、「自分の心身に悪影響」(母子22.3%、父子22.7%)が多い。

(2) 介護(ダブルケア)

- 約1割(母子10.8%、父子12.7%)が介護をしており、うち約4人に1人(母子24.9%、父子30.8%)は介護にあたって家族の手助けがない状況。
- 介護のために約2割の方が労働時間を減らしており(母子11.0%、父子28.6%)、数は少ないが離職した方もいる(母子3.5%、父子14.3%)。

(3) 子どもが行う家事や家族の世話(ヤングケアラー)

- 約1割(母子9.1%、父子11.8%)の子どもが日常的に家族の世話をしており、国調査の中高生全体(4~6%)と比べて高い傾向。
- 世話の相手は兄弟姉妹が半数以上。
- 3割以上(母子36.1%、父子42.7%)の子どもが日常的に家事をしている。

<継続調査>

調査結果は、前回とほぼ同様の傾向であり、悩みごとは家計が一番多く、平均就労収入は増加しているものの、依然、厳しい状況(母子243.2万円(+34.2万円))が続いている。進学のための準備としては、「特になにもしていない」と回答した割合が3割以上と多く(母子、父子 32.7%)、その理由は「経済的に厳しいため」という回答が大半を占める。また、子どもだけで食事をしている家庭が4.5人に1人と孤食が深刻化(前回5人に1人)している。

(1) 親自身と子に関する悩み

- 自分自身の困りごと(複数回答可)について、「家計」が母子・父子ともに最も多く(母子58.5%、父子40.9%)、その他に「気持ち・情緒面」(母子35.7%、父子21.8%)、「健康」(母子31.2%、父子32.7%)、「仕事」(母子30.5%、父子30.0%)などが多い。
- 子どもに関する悩み(複数回答可)について、「教育・進学」が母子・父子ともに最も多く(母子57.6%父子50.9%)、次に「気持ち・情緒面」(母子38.0%、父子29.1%)が多い。

(2) 家計・仕事

- 1年間の自身の就労収入について、母子で一番多いのは「200万～250万」(15.7%)、父子は「300万～350万」(15.5%)であった。
- 平均就労収入は、母子は243.2万円(+34.2万円)、父子は387.1万円(+28.9万円)で、前回調査(H28)に比べて、母子・父子ともに大きく増加している。
- 就労以外の収入(手当等)の平均は、母子が58.2万円、父子は81.4万円あるが、就労収入と合わせた収入はふたり親世帯と比べて少ない。特に母子は父子より平均就労収入が約140万円少ない。

(3) 教育・進学

- 子どもに関しては、「教育・進学」に関する悩みが一番多く、母子、父子ともに半数を超え(母子57.6%、父子50.9%)しており、子の教育や進学に不安を抱えている。
- 子どもの進学のための準備について、母子については、「貯金」が34.0%と一番多く、次に「何もしていない」が32.7%と続いている。父子については、「何もしていない」が32.7%と一番多く、次に「貯金」が30.0%となっている。「何もしていない」理由は「経済的に厳しいため」という回答が大半を占めた(母子84.6%、父子58.3%)。

(4) 子どもの食事環境

- 子どもに関する悩みに「気持ち・情緒面」、「しつけ」を挙げる家庭が多いが、その一因には、子どもとのコミュニケーションの場として重要な食事時間をともに過ごすことのできない孤食の実態がある。
- 一緒に食事する主な相手について、一人及び兄弟姉妹と答えた割合が朝食で約3割(母子32.9%、父子27.6%)、夕食で2割近く(母子17.9%、父子17.7%)となっており、子どもの4.5人に1人(前回5人に1人)は子どもだけで食事をしている。そのうち、末子が小中学生の家庭では、約25人に1人が夕食を一人でとっている。(前回:40人に1人)